

令和4年度
埋蔵文化財調査士補
資格試験
小論文問題・答案用紙

次の設問から2問を選び、答案用紙に選択した問題番号を記入の上、
それぞれ400字以内で記述しなさい。

- ① 発掘調査の計測・記録におけるデジタル化の利点について記述せよ。
- ② 弥生時代水田跡の研究における日高遺跡の意義について記述せよ。
- ③ 遺跡探査にはどのような方法があるか複数の方法を挙げて記述せよ。
また遺跡探査の長所と短所について、発掘調査と比較しながら記述せよ。

受験番号	氏名	(選択番号)	

試験日：令和4年8月27日（土）

会場：「連合会館」東京・御茶ノ水

公益社団法人 日本文化財保護協会

R 4・調査士補 小論文出題問題、回答例

設問 ① 発掘調査の計測・記録におけるデジタル化の利点について記述せよ。

回答例：以下のいずれかに言及していること

- ① 機械力の導入と同様に、デジタル化による効率化が発掘調査の効率化に寄与している
- ② 測量・計測機器等から直接コンピュータに情報を取り込み、編集加工等ができるため工数の削減や、入力・転記の際のエラーを回避できる
- ③ 発掘調査～整理作業、報告書作成まで一貫した工程で扱うことができるため、作業工程の効率化に適している。
- ④ 共通するファイル形式（オープンフォーマット）を採用することで、異なる機器やソフトの間でもデータを相互利用することができる

設問 ② 弥生時代水田跡の研究における日高遺跡の意義について記述せよ。

回答例

弥生時代は水稻栽培が列島で開始された時代である。水田跡の発見によって、それが実証されたのは、戦後の静岡市登呂遺跡の発掘である。同遺跡の発掘後、集団や社会構造を検討するうえで水田が重要な資料と認識され、低湿地水田から弥生時代中期以降の灌漑技術の進展が想定された。それは登呂遺跡で発見された大区画水田を基にしたモデルであったとあってよい。ところが、群馬県日高遺跡で、大畦畔で囲まれた内側を小畦畔で区画した小区画水田が発見されると、全国で同様の水田跡の発掘が相次ぎ、登呂遺跡も再調査の結果、大畦畔の内側に小区画水田の展開することが明らかになった。小区画水田こそ、弥生水田の普遍的な形態であることは明確で、もはや、中期以降の灌漑技術の進展を説くことは難しい。この現状を踏まえ、改めて集団と水田の関係を検証し、社会構造の復元へ昇華させることが求められるが、その端緒となったのが日高遺跡である。(391文字)

設問 ③ 遺跡探査にはどのような方法があるか複数の方法を挙げて回答せよ。また遺跡探査の長所と短所について、発掘調査と比較しながら記述せよ。

回答例

遺跡探査の方法には、地形図、古地図、空中写真、衛星画像などを利用する方法や、航空レーザー測量や地中物理探査などを挙げるができる。さらに地中物理探査には地中レーダー探査、電気探査、磁気探査などの方法があり、遺跡の内容に応じて、その手法を組み合わせて実施する。

遺跡探査の長所は、発掘調査と比較して小規模な予算で複数の視角から非破壊で遺跡を調査することができる点、またより適切な発掘調査計画の立案に資する点にある。いっぽう短所は、地下の構造物の具体的内容や時期までは明らかにできない点にある。また地中物理探査などでは調査環境によって良好な結果が得られない場合がある。